

# 土木建築最近工事施工法講座

第3編の2

## 混擬土施工の容易なる取扱方法

工學士 野澤房敬

水量の多い軟練コンクリートは工事施工に便利であるが出来上つた後に強度が足りない、硬練にすれば施工が厄介である、其に强度を損しない程度に軟練コンクリートを以て施工を容易にする方法が實行出来るとすれば、現場の實地工事に非常な有益な事ではありませんか。（係記者）

**混擬土の敷設** 型枠内に混擬土を敷設する場合、取扱容易ならざる混擬土を以てする不利益は、攻撃に遅がない程である。工事の種類にも依るが、建造物の異なりたる部分には、又た夫々種々異なりたる結度の混擬土を使用せねばならない。隨つて混擬土の配合も、夫々變化するのみならず、其作業皆一様に同じ時日に施工せらるべきである。故に老練工を要し、工費も増すのである。鋸歯状屋根の傾斜せる混擬土の床版工事の如き、傾斜せる丈、普通平屋根上に混擬土を敷設するが如き容易なるものではない、此場合は工事の一部分に、特別の調整を爲したる砂礫を使用する必要がある。即ち大梁の下腹の周圍に耐火施設を爲し、或は補強鐵筋材の複雜せる個所に於ける施工等の如く爲す可きである。其他總ての建造物中新規の混擬土面は出來得る限り平坦と爲す事。型枠内に投入したる混擬土の砂礫にして、若し分離せるを認めたる時は、ショベルにて能く鋤返す事。型枠内は順序正しき方法にて充實する事。打立半途にて已む無く中止する個所は成る可く減少する様努む可き事。

一般に建造物用の混擬土は施工中其上面に

水の溜らざる様、配合の設計を爲す可きである。若し水溜りの出來したる場合は、ショベル或は桶にて掬ひ出し、又た其水は型枠の縁上を越へしむる事か、或は混擬土面を流す可きではない。其れは砂礫の分離を來し、混擬土の素質を損傷するからである。

表面の仕上げを要する建造物の場合、混擬土の取扱容易なる事の奈何に有利なるや、殊に目地直しや蜂巣面の補習の如きは、多大の工賃を要するものであるが故に、取扱容易ならざる混擬土に代ふるに取扱容易なるものを以てする方、大に利益があるのである。

**取扱容易なる事と耐久力との關係** 混擬土の取扱容易なる事と、耐久力との間には離る可らざる關係があるが故に、所謂取扱容易なる事とは、耐久性をも有するもの也と知り置かれたいのである。而して取扱を容易ならしむる事は、製品の資質を前知して之を混擬土の製造に應用する基準を得る意味である。

砂礫が清淨にして、堅硬であり、是に配するに洋灰の品質が適當であれば、混擬土の強度は水對洋灰比率に依りて、取扱容易なる混合を制御する事が出来るのである。取扱容易